

決済手段についての若者の動向と考察

岩本 岳
日本大学 法学部

キーワード：キャッシュレス決済、現金、若者、

1 はじめに

現在我が国では IT 化・デジタル化が他の先進国に比べて遅れているという指摘は日々耳にすることだろう。実際に、我々を取り巻く社会ではアナログな事務処理や現金の文化が未だ根強く残っている。(ex.紙の帳簿、フロッピーディスク、現金払い等) この中でも特に現金払いはデジタル化の推進、昨今の人手不足問題や高まるインバウンド需要への対応に障害となっているといえる。近頃都市部のコンビニエンスストア等を中心にキャッシュレス決済専用のセルフレジが導入され始めたが、未だに多くの人々が現金で支払う為に有人レジに列をなしている光景は珍しくない。コロナ禍によって非接触やリモートワークが推奨され、実際にそれらが普及したように時代や需要に合わせて人々の生活様式は変化してきた。これと同様に現金払いが未だ根強い決済手段においても、キャッシュレスへの移行という変化は起こるのかという疑問が生じる。そこで、本研究ではこれからの我が国を担っていく若者世代はキャッシュレス決済についてどのような意識を持っているのかを調査することで、若者世代の決済手段への意識と利用状況を明らかにし、考察を行う。

2 研究方法

本研究ではアンケート調査を行った。アンケート調査は主に日本大学法学部に所属する学生を対象に行った。Google フォームを用いて 2024 年 7 月 22 日から同年 8 月 22 日まで実施した。アンケート調査では性別などの基本的な個人属性ならびに、現金とキャッシュレス決済どちらを好んで利用する割合が高いかを質問し、回答に応じてその決済手段を好んで利用する理由を複数回答可のア

ンケート形式で調査した。また、キャッシュレス普及率が 8 割を超える諸外国と我が国を比較し、将来的にこれらの国々と同等の水準までキャッシュレスを普及させる必要があると考えるかについても質問を行った。

有効回答数は 113 件であり、質問に対する回答および、回答者の性別の割合は男性が 70 人、女性が 41 人、その他の集計結果となり、男性が女性を約 70%上回る数にてアンケート調査を行った。

2.1 現金とキャッシュレス決済どちらを好んで利用する割合が高いかについて

現金を好んで利用すると回答した人は全体の 44% (50 人)、キャッシュレス決済を好んで利用すると回答した人は全体の 56% (63 人) となった。

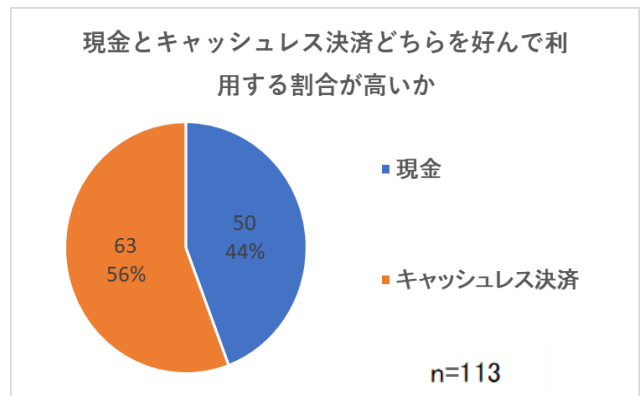


図 1. 現金とキャッシュレス決済どちらを好んで利用する割合が高いか

キャッシュレス決済を好んで利用すると回答した人が現金と回答した人よりもやや多い結果となった。

2.2 現金を好んで利用する理由について

このセクションでは、2.1において現金を好んで利用すると回答した人（50人）に向けて、その理由について近いものを複数選択可能、選択肢追加可能の形で質問した結果、以下の通りとなった。最も多い回答は現金が必要な場面が多いからであった（31人）。

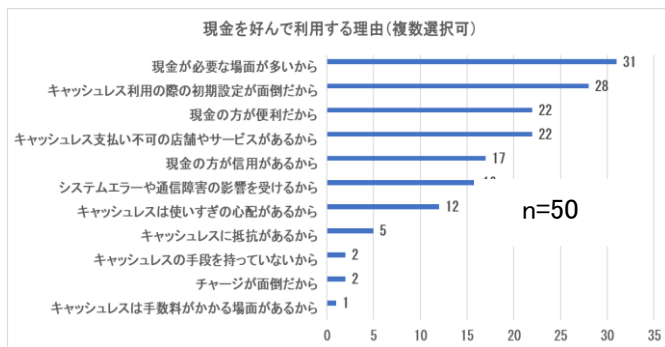


図2. 現金を好んで利用する理由について

結果から、キャッシュレス決済のデメリット（全ての店舗やサービスで利用できるとは限らないこと、初期設定や現金の方が確実であること等）に起因する理由を嫌って、現金を好んで利用する人が多いよう見受けられる。

2.2.1 普段どのくらい現金を持ち歩いているかについて

2.2に続いて、現金を好んで利用する人は普段どのくらい現金を持ち歩いているのかを質問したところ、以下の結果となった。最も多かったのは10001円以上であった（20人）。

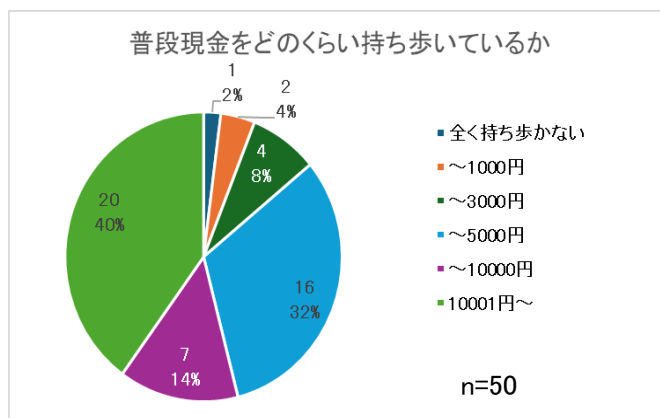


図3. 普段どのくらい現金を持ち歩いているか

結果から、現金を好んで利用する人は普段から持ち歩く現金が多い傾向がうかがわれた。

2.2.2 どのようなサービスがあれば今後キャッシュレス決済を積極的に利用したいと考えるかについて

また、どのようなサービスがあれば今後キャッシュレス決済を積極的に利用したいと考えるかについて自由記述式で質問したところ、以下の意見が挙がった。

- 場所によって使用できるか否かに縛られない
- サービスごとの連携を高める
- 国がキャッシュレスのサービスを作る
- ポイント還元率が高い

結果から、現金を好んで利用すると回答した人もキャッシュレス決済が現状よりも便利に普及した場合は利用を示唆する回答が見受けられた。

2.3 キャッシュレスを好んで利用する理由について

このセクションでは、2.1においてキャッシュレス決済を好んで利用すると回答した人（63人）に向けて、その理由について近いものを複数選択可能、選択肢追加可能の形で質問したところ、以下の通りとなった。最も多い回答はキャッシュレスの方が便利だと考えるからであった（60人）。

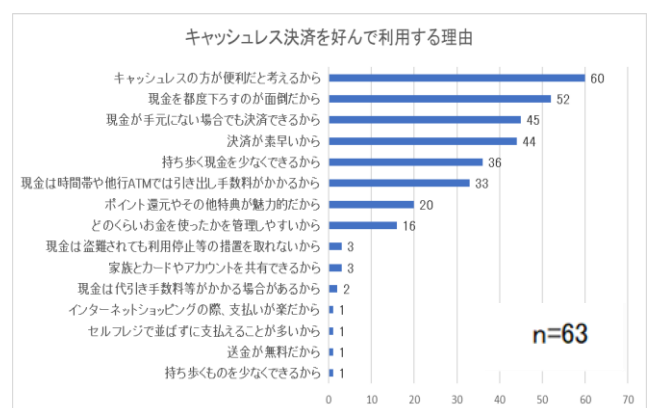


図4. 現金を好んで利用する理由について

結果から、手元に置いておく必要のある現金の特性を嫌って、キャッシュレス決済を好んで利用する人が多いよう見受けられる。

2.3.1 普段どのくらい現金を持ち歩いているかについて

2.3に続いて、キャッシュレス決済を好んで利用する人は普段どのくらい現金を持ち歩いているのかを質問したところ、以下の結果となった。最も多かったのは～3000円であった。

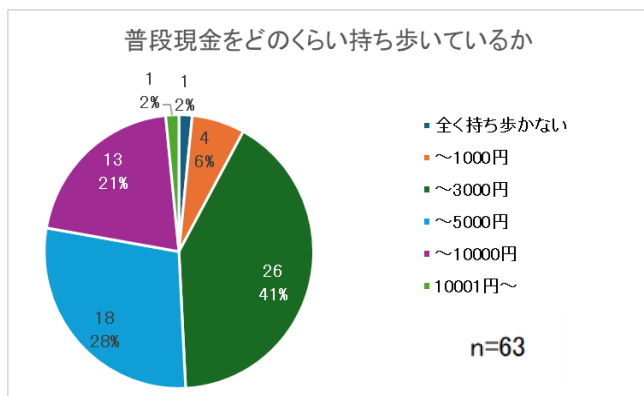


図5. 普段どのくらい現金を持ち歩いているか

結果から、キャッシュレス決済を好んで利用する人は持ち歩く現金が少ないことが多く、4.2.1の現金を好んで利用する人と比較して、持ち歩く現金に大きな差があることが明らかになった。

2.3.2 どのようなサービスがあれば今後もキャッシュレス決済を積極的に利用したいと考えるかについて

また、どのようなサービスがあれば今後もキャッシュレス決済を積極的に利用したいと考えるかについて自由記述式で質問した結果、以下の意見が挙げられた

- 使える店舗が増えれば便利
- ポイント還元率が高い
- キャッシュレスに対する割引サービス

こちらの結果も、2.2.2で得られた回答と類似したものが挙げられた。

2.4 どのキャッシュレス決済を利用したことがあるかについて

このセクションでは、現金とキャッシュレス決済どちらを好んで利用するかを問わず、アンケート回答者全員にどのキャッシュレス決済を利用し

たことがあるかについて質問（複数回答可、選択肢の追加可）したところ、以下の結果となった。最も多かった回答は交通系IC（Suica,PASMO等）であった（110人）。

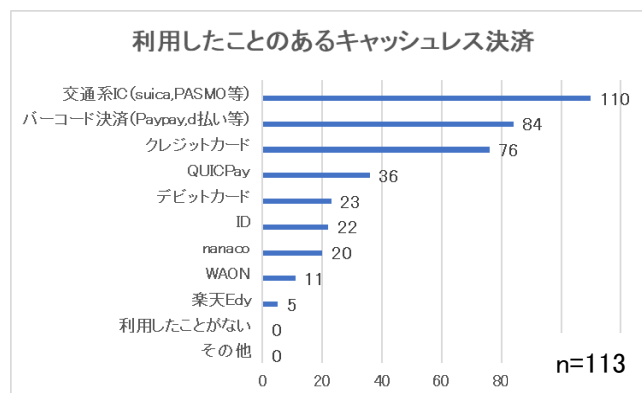


図6. 利用したことのあるキャッシュレス決済

結果から、全ての人が何かしらのキャッシュレス決済を利用したことがあることが分かった。中でも、交通系ICやバーコード決済などのチャージが簡単で気軽にプリペイド式に利用できるものがよく利用されているよう見受けられる。

2.5 回答者の周囲の大人の方がよく利用している決済手段について

このセクションでは、若者世代とそれ以上の世代で決済手段に差異はあるのかを明らかにするため、アンケート回答者の周囲の大人の方（ご家族等）がよく利用している決済手段を（複数回答可、把握できる範囲で可、選択肢の追加可）質問したところ、以下の結果になった。最も多かった回答はクレジットカードであった（96人）。

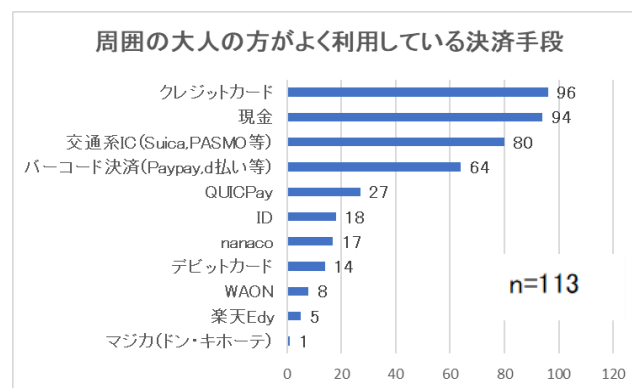


図7. 周囲の大人の方がよく利用している決済手段

結果から、現金、クレジットカードや交通系 IC 等が多く、昔からの馴染み深い決済手段が多く利用されているように見受けられる。比較的新しいキャッシュレス決済であるバーコード決済に注目すると、2.4 の若者の結果と比較して、大人の世代ではやや少ない。

2.6 キャッシュレス決済が現在よりも普及するにはどのようなことをする必要と考えるかについて

このセクションでは、キャッシュレス決済が現在よりも普及するにはどのようなことをする必要があるかをアンケート回答者全員に質問（複数回答可、選択肢の追加可）したところ、以下の結果になった。最も多かった回答は、政府や地方公共団体の事業者へのキャッシュレス導入援助（80 人）であった。

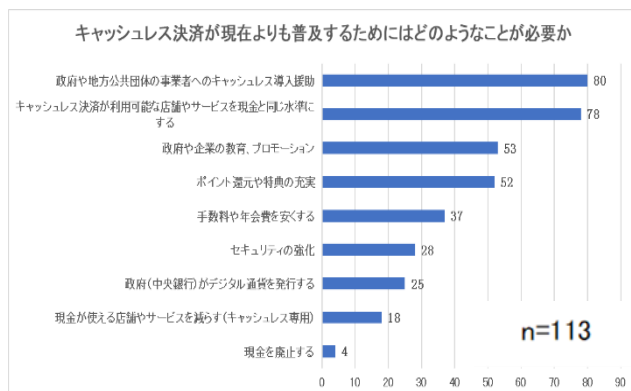


図 8. キャッシュレス決済が現在よりも普及するにはどのようなことが必要か

結果から、政府の援助を必要とする意見が多いように見受けられた。一方で、現金の廃止や政府によるデジタル通貨発行といった意見は少なかったことから、極端な施策は難しいように推察する。

2.7 キャッシュレス普及率が 8 割を超える諸外国と我が国を比較し、将来的にこれらの国々と同等の水準までキャッシュレスを普及させる必要があると考えるかについて

キャッシュレス普及率が 8 割を超える諸外国と同等の水準までキャッシュレスを普及させる必要があると考えるかについて、現金を好んで利用すると回答した人も含めて、肯定的な意見が多かったことから、若者世代ではキャッシュレス決済そ

のものに抵抗感といった意識は少ないのではないかと推察する。

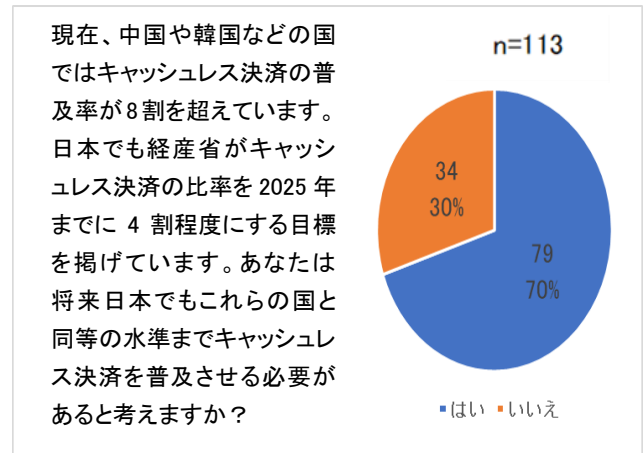


図 9. キャッシュレス普及率が 8 割を超える諸外国と我が国を比較し、将来的にこれらの国々と同等の水準まで普及させる必要があると考えるか

3 考察

アンケート結果から、現在現金を好んで利用するという回答者の中にも、これからの普及やサービスの改善次第ではキャッシュレス決済を好んで利用する可能性を秘めた層がある程度潜在していると考えられ、これらの層へのアプローチが今後キャッシュレス決済を普及させていく際に重要な課題になるのではないかと考察する。また、若者世代ではキャッシュレス決済そのものに抵抗感といった意識は希薄であるように見受けられ、キャッシュレス決済の普及自体には前向きな回答が多かったことから、これからの世代では徐々にキャッシュレス決済は普及していくのではないかと推察する。

4 おわりに

近頃は、街中でレンタルサイクルや貸出モバイルバッテリー等の支払い方法がキャッシュレス決済のみのサービスも多く見られ、若者を中心に日々多くの人に利用されるようになった。これらはサービスの特性上、現金での支払いは難しく、キャッシュレス決済故に低コストかつ無人で 24 時間利用することができている。

また、これまではクレジットカードのコンタクトレス決済（いわゆるタッチ決済）で鉄道の改札

機を利用することは、交通系 IC とクレジットカードの決済に使用される規格が異なるためにできなかったが、東京メトロをはじめとした鉄道会社ではクレジットカードのコンタクトレス決済でも利用できるように実証実験を開始するという。こうした動きは、日本に住む我々だけでなく、海外からの訪日客にとっても非常に便利になる。これまで駅職員が外国語で対応していた負担を減らすことや紙の切符を削減することにも繋がり、昨今の人手不足問題や高まるインバウンド需要に応えることができるのではないだろうか。

さらに、経済産業省の報告によると、現在の現金インフラを維持するコストは年間 2.8 兆円に上ると推計されており、将来的に現金を廃止するといったことはないものの、キャッシュレス決済の推進には大いに意義があると考えられる。

キャッシュレス決済が現状よりも普及し、市場規模や需要が拡大すれば、新たなサービスも生まれ、私たちの生活はより便利に、豊かになるのではないだろうか。そのためにも、これからの日本を担う若者世代を中心にキャッシュレス決済を普及させていく必要があると考える。

参考文献

- [1] 東京メトロ, 「ニュースリリース クレジットカードのタッチ決済等を活用した乗車サービスの実証実験を 2024 年度中に開始します」, <https://www.tokyometro.jp/news/2023/216086.html>, (参照 : 2024 年 8 月 23 日)
- [2] 経済産業省, 「キャッシュレス将来像の検討」, https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/cashless_future/pdf/001_06_00.pdf, (参照 : 2024 年 8 月 22 日)
- [3] 消費者庁, 「キャッシュレス決済に対する意識」, https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/2021/white_paper_130.html (参照 : 2024 年 8 月 22 日)
- [4] KOMOJU, 「NFC とは?仕組みや FeliCa との関係、代表的な規格について解説」, <https://ja.komoju.com/blog/nfc/>, (参照 : 2024 年 8 月 23 日)
- [5] Impress Watch, 「広がり始めた“タッチ”乗車現状と課題を整理する」, <https://www.watch.impress.co.jp/docs/series/suzukij/1582517.html>, (参照 : 2024 年 8 月 23 日)